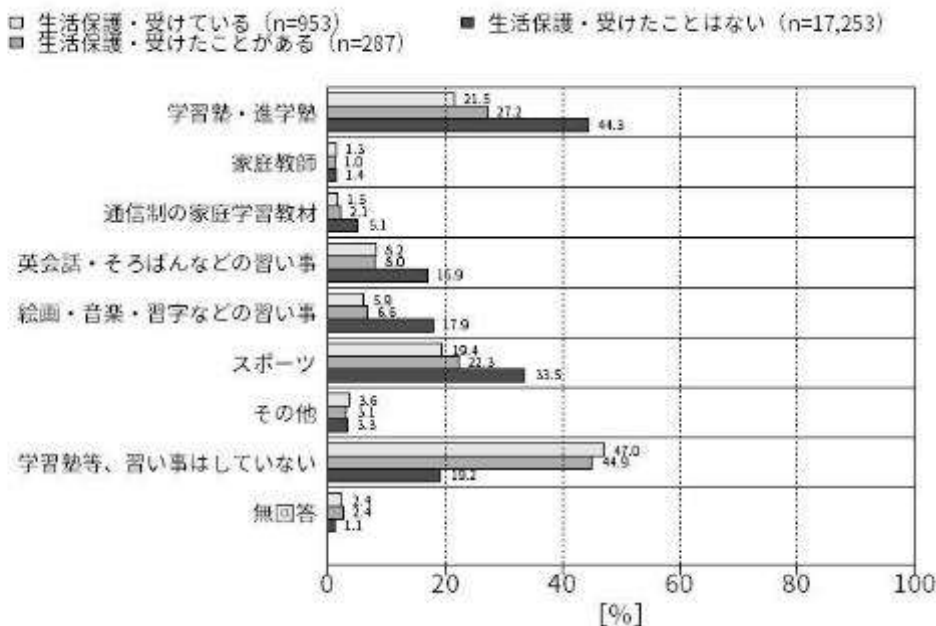


生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

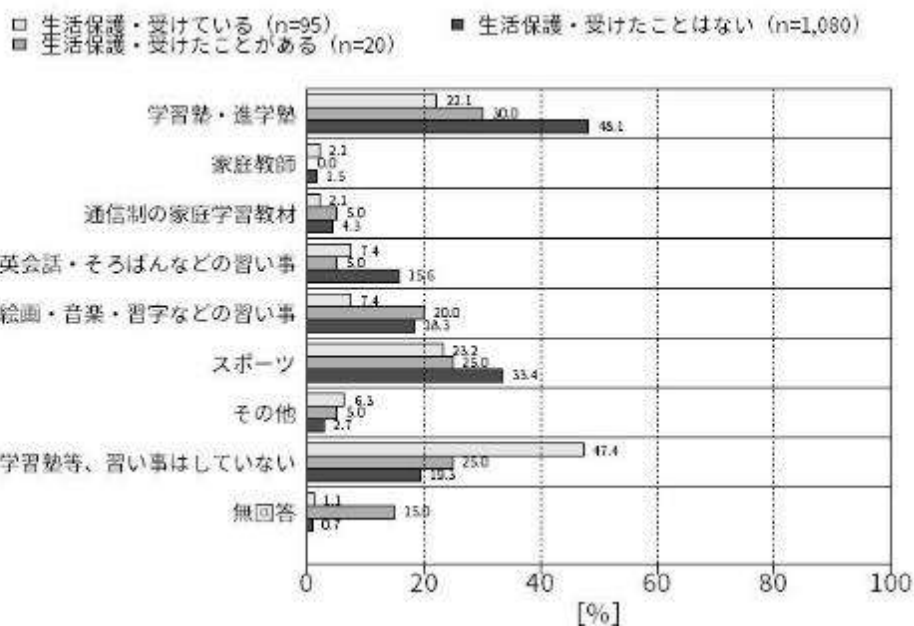
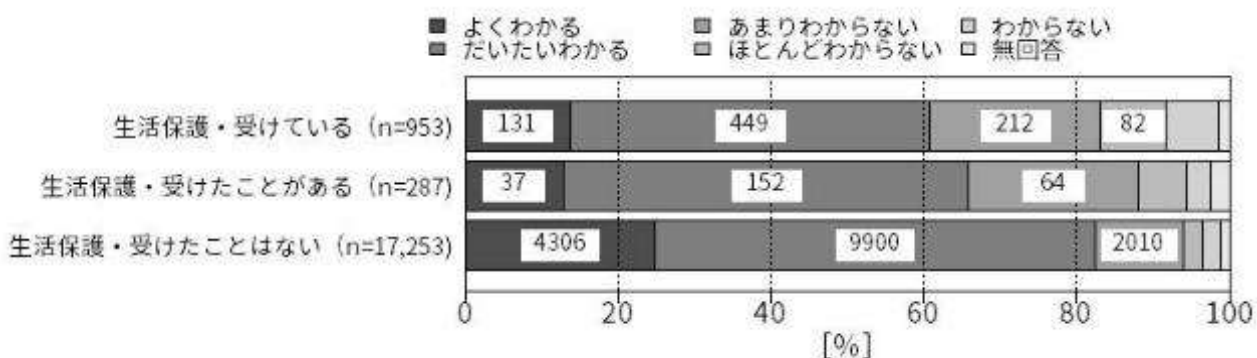


図 146. 生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況

生活保護を受けている世帯では、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもが47.4%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では25.0%、生活保護を受けたことがない世帯では19.3%であった。

生活保護の受給別に見た、学習理解度（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 18)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

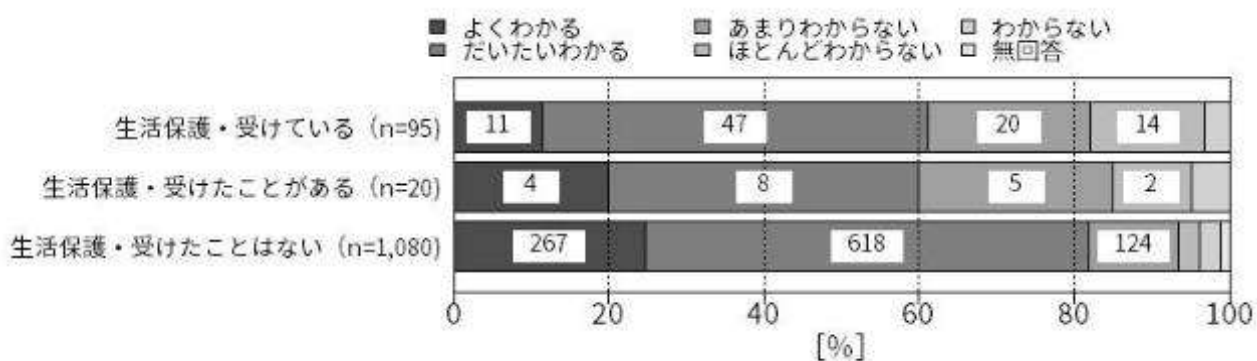


図 147. 生活保護の受給別に見た、学習理解度

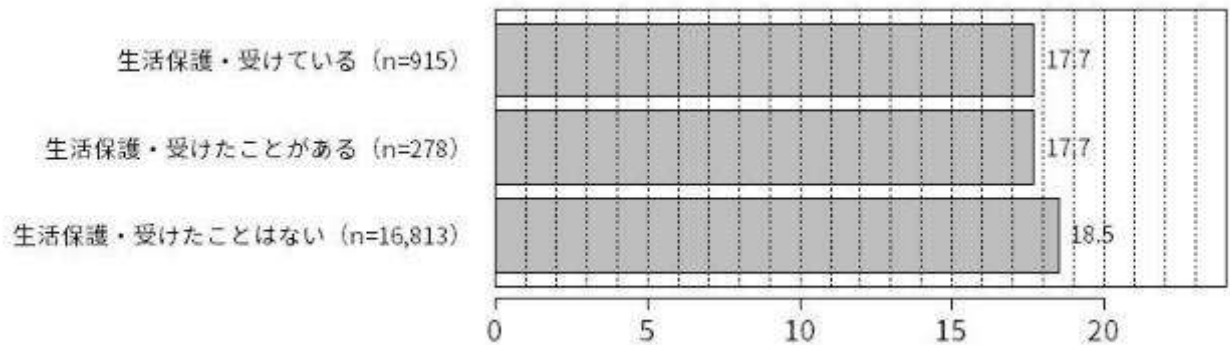
生活保護を受けている世帯では、学校の勉強を「わからない」と回答した子どもが 3.2%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 5.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.7%であった。

生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）

（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 26(1)～(6)）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の6項目について、それぞれ4段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

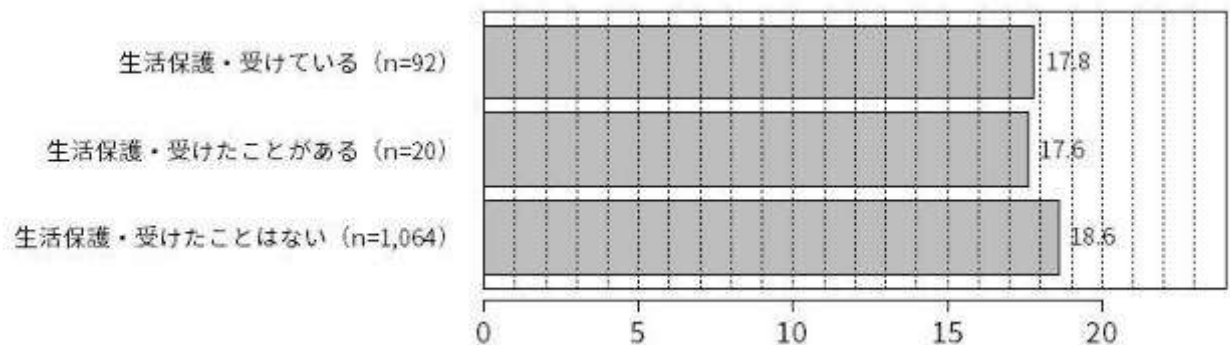


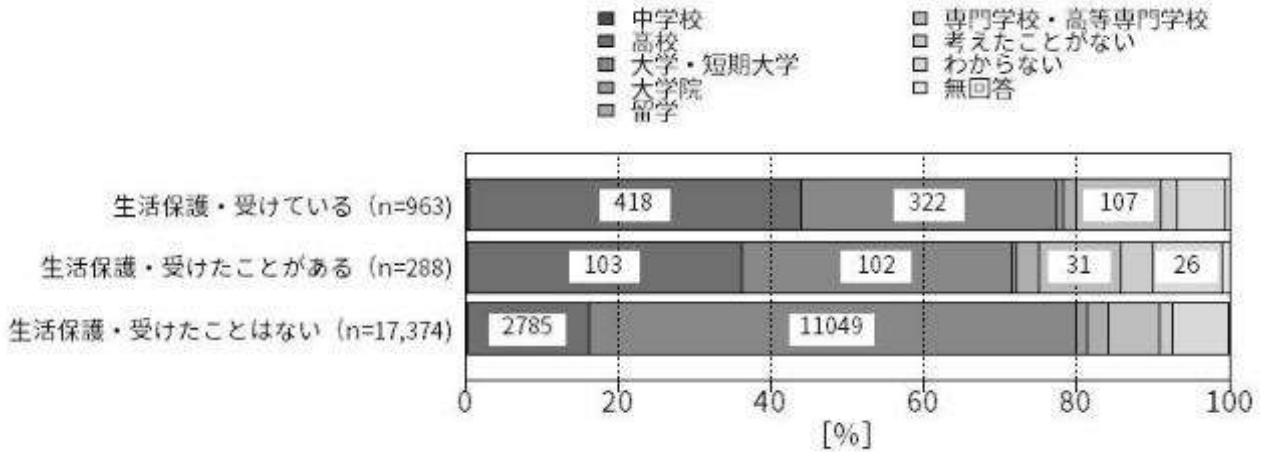
図 148. 生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）

生活保護を受けている世帯では、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 17.8 点に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 17.6 点、生活保護を受けたことがない世帯では 18.6 点であった。

生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)⑤ × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

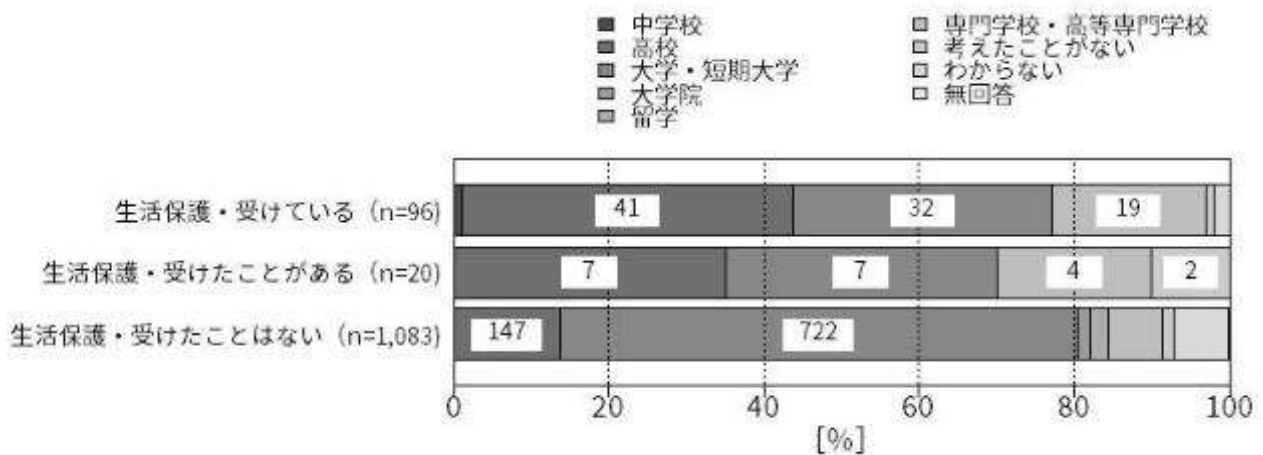
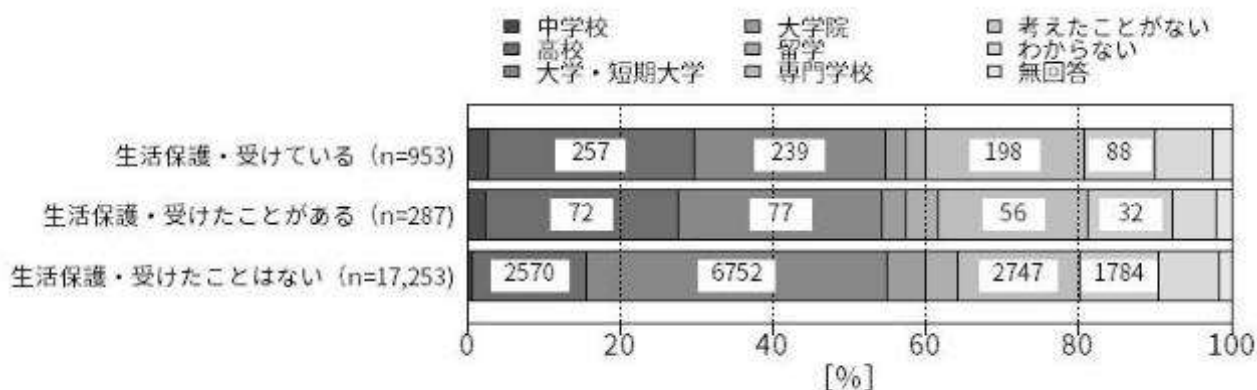


図 149. 生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

生活保護を受けている世帯では、子どもに希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した保護者が 33.3%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 35.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 66.7%であった。

生活保護の受給別に見た、希望する進学先（保護者票 問 30(3)⑤ × 子ども票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

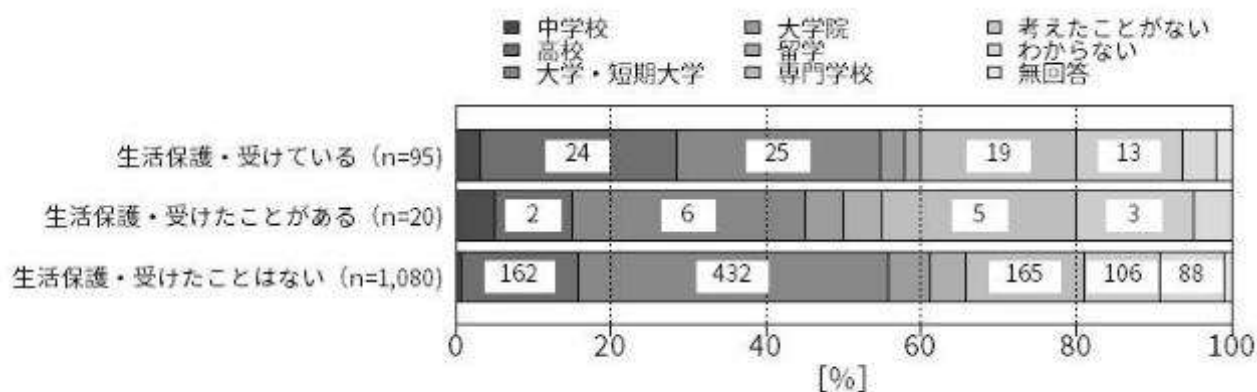
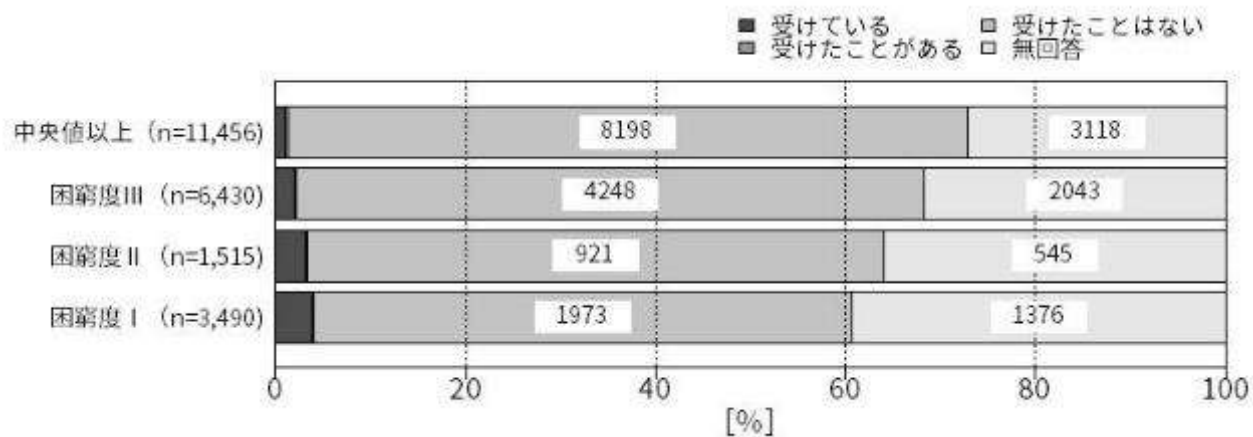


図 150. 生活保護の受給別に見た、希望する進学先

生活保護を受けている世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが 26.3% に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 30.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 40.0% であった。

困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）（保護者票 問 30(3)⑦）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

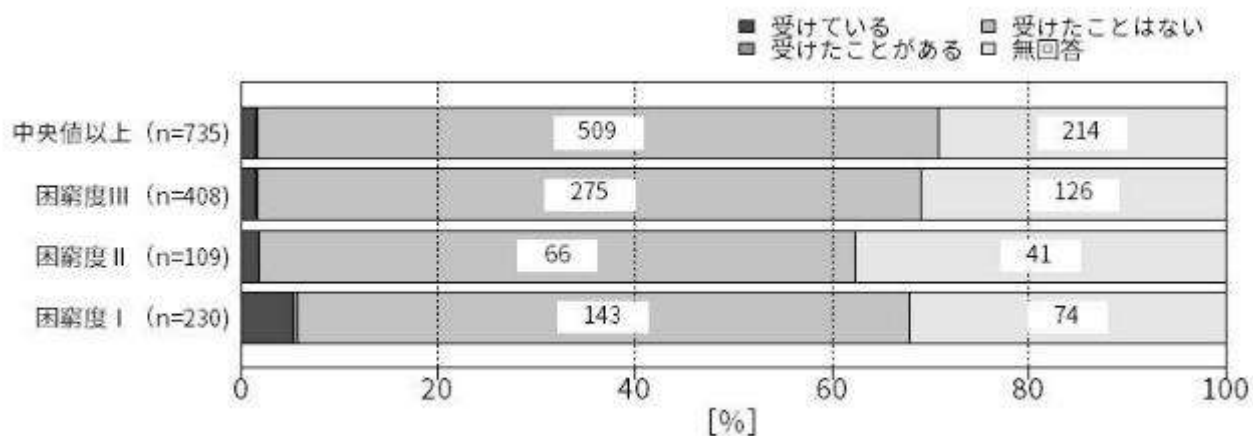
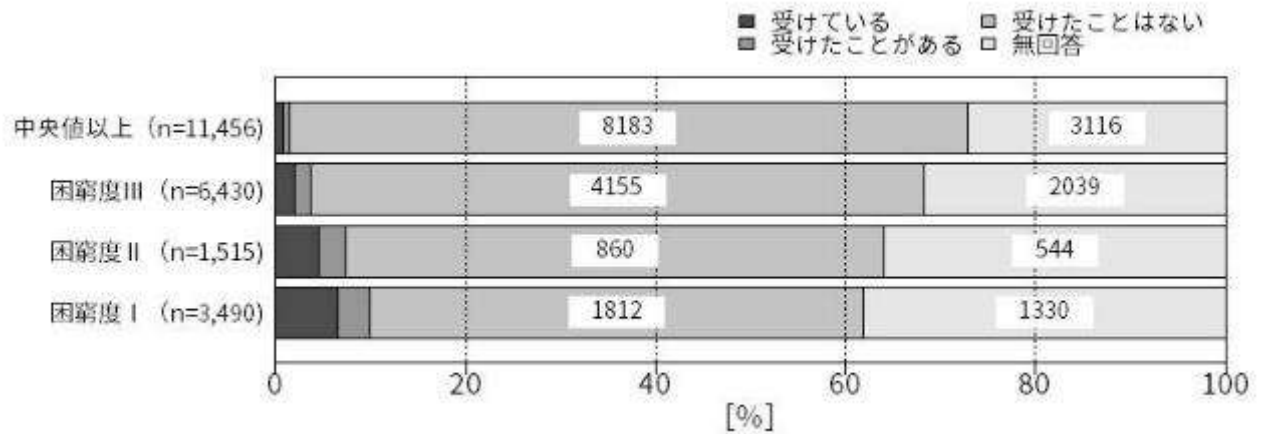


図 151. 困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）

困窮度別に遺族年金や障がい年金といった公的年金の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は 5.2%であった。

困窮度別に見た、養育費（保護者票 問 30(3)⑨）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

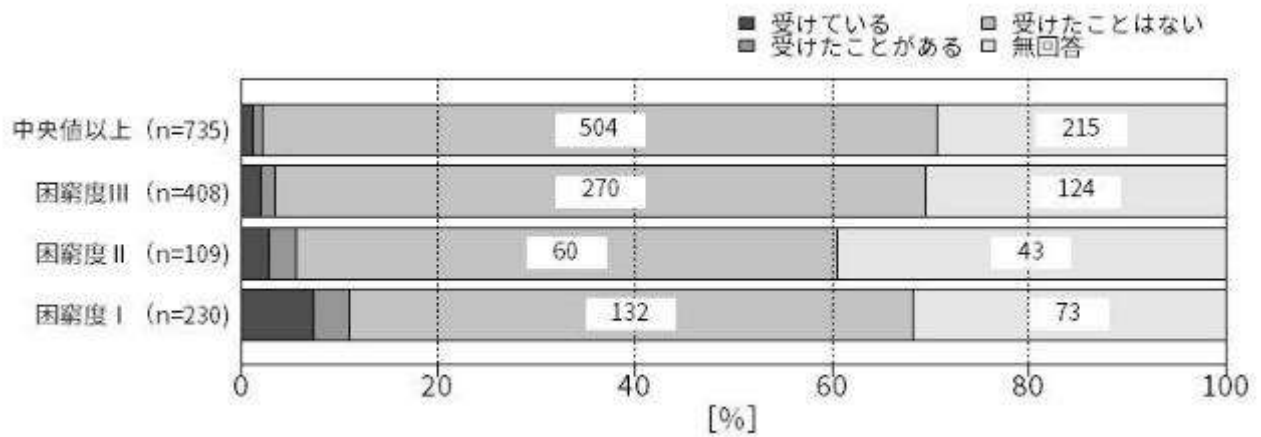


図 152. 困窮度別に見た、養育費

困窮度別に養育費の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は7.4%であった。さらに、以下に、ひとり親世帯のなかでの養育費の受給状況を示す。困窮度Ⅰでも「受けたことがない」が50.5%を占め、無回答が29.9%存在する。

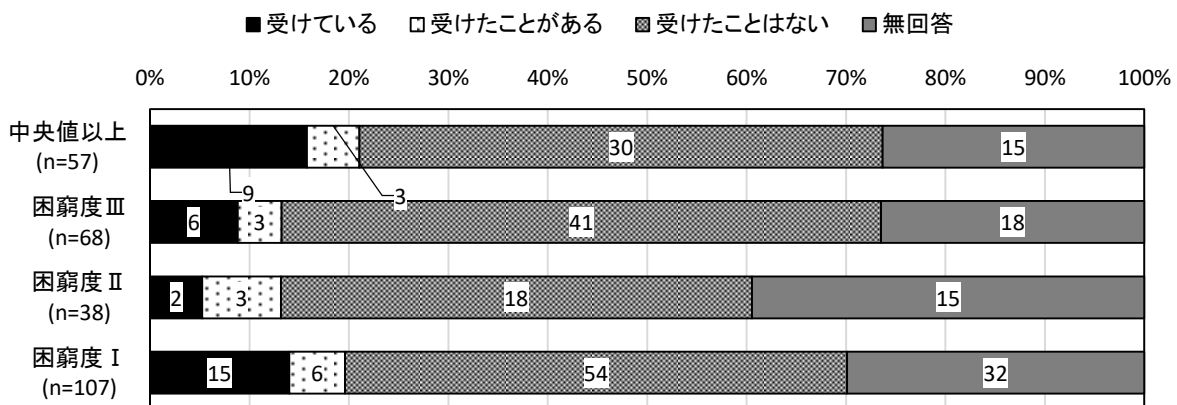
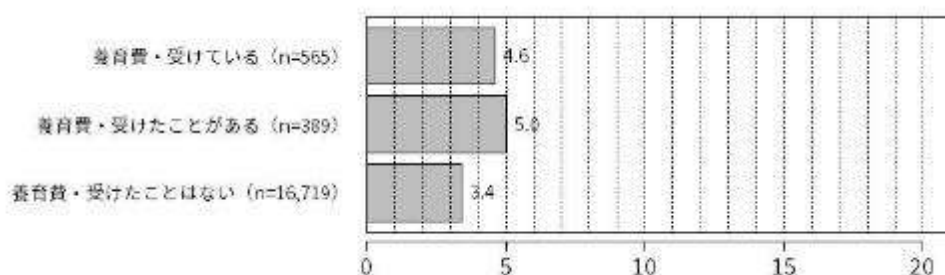


図 152 の補足図. 困窮度別に見た、養育費（ひとり親）

養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 7)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

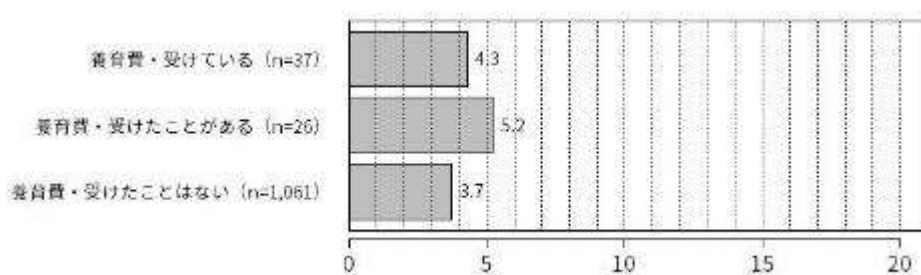
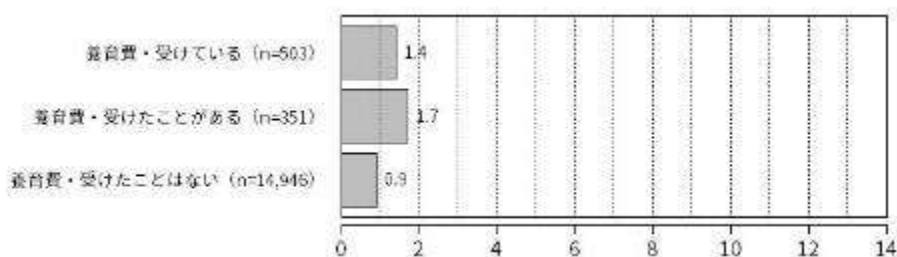


図 153. 養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 4.3 個、5.2 個であった。

養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 13)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

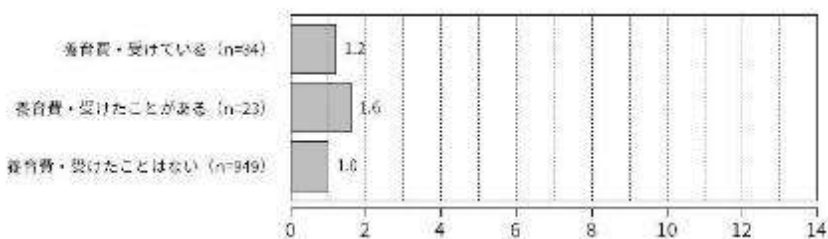


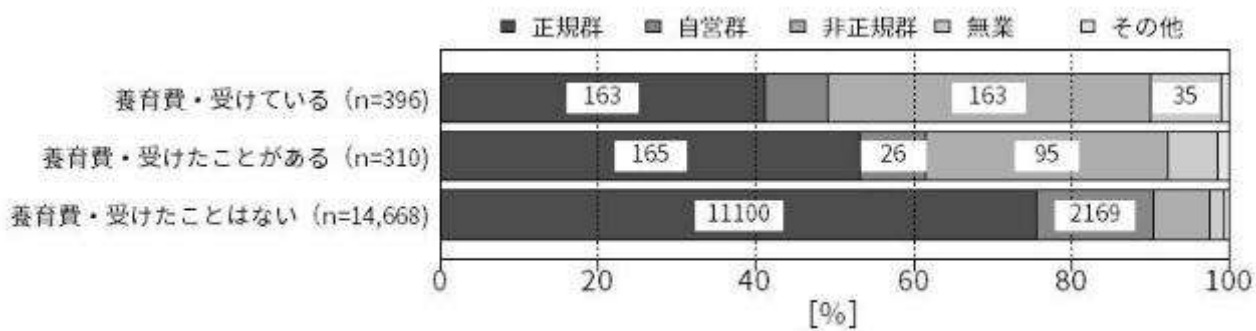
図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 1.2 個、1.6 個であった。



養育費の受給別に見た、就労状況（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

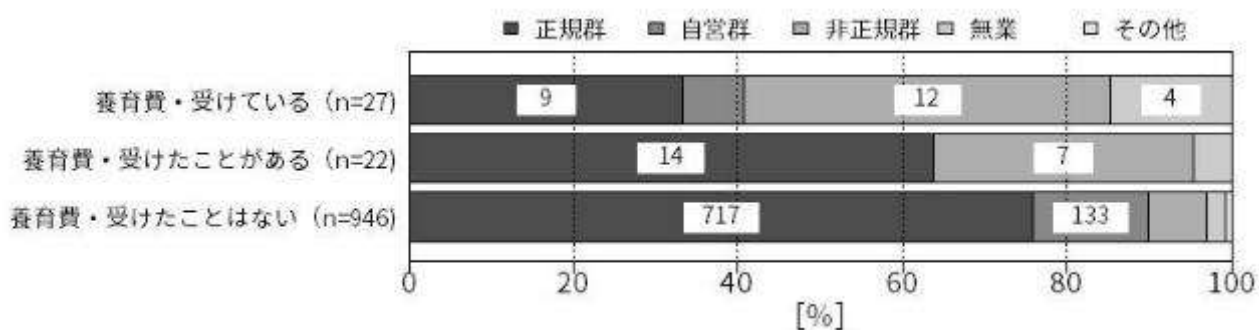
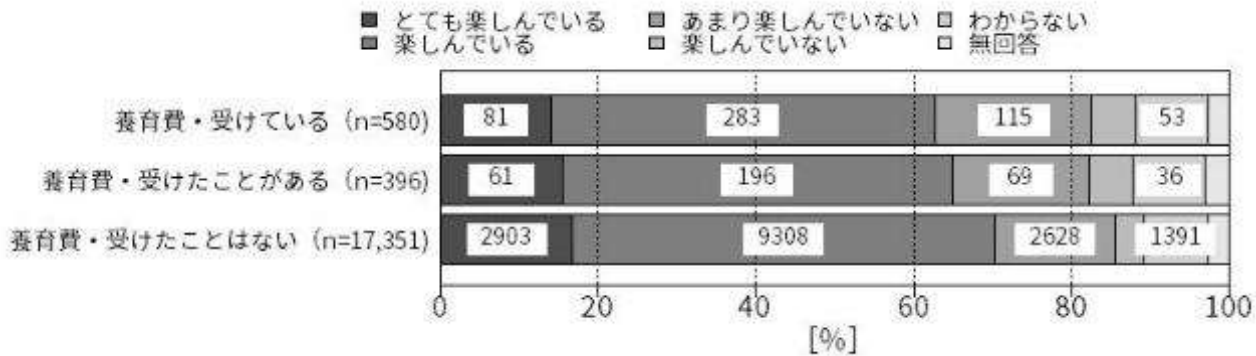


図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を受けている世帯では、「非正規群」が 44.4%、「無業」が 14.8%に対し、養育費を受けたことがある世帯ではそれぞれ 31.8%、4.5%、養育費を受けたことがない世帯では 7.1%、2.3%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）  
 （保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(1)）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

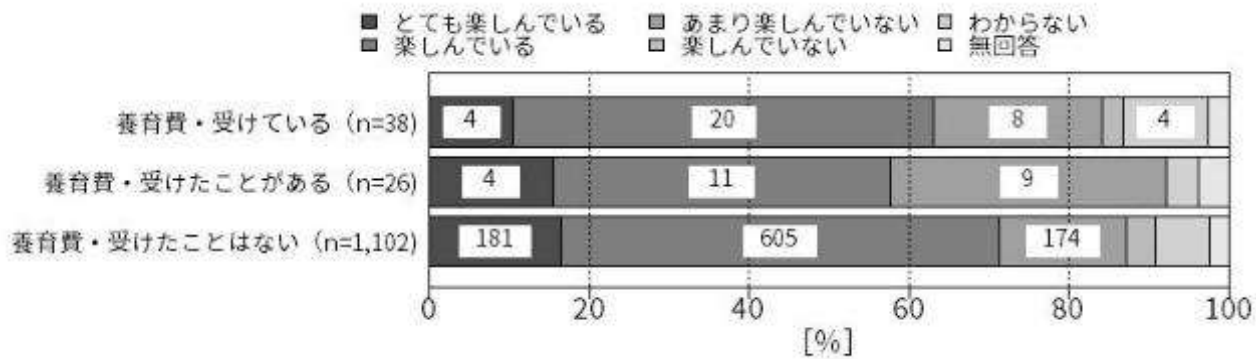


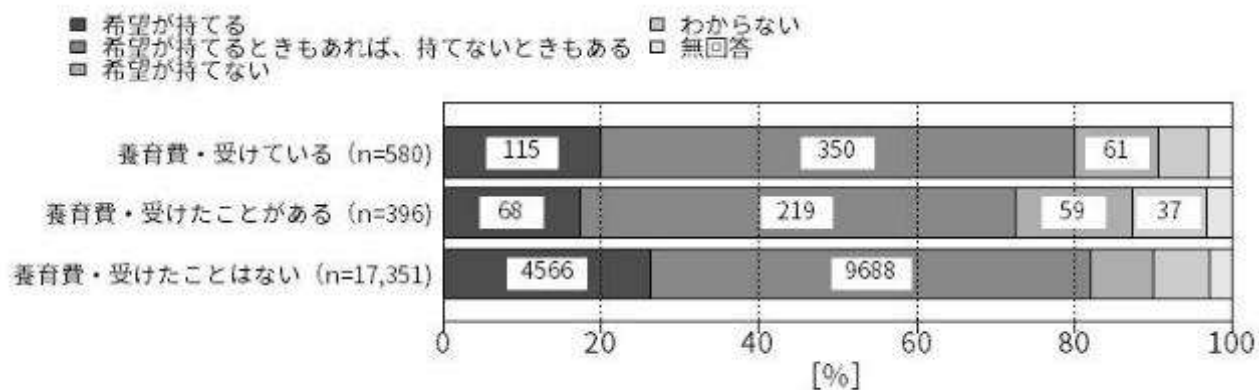
図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

どの世帯でも、「楽しんでいる」の割合は6割程度であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

（保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(2)）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

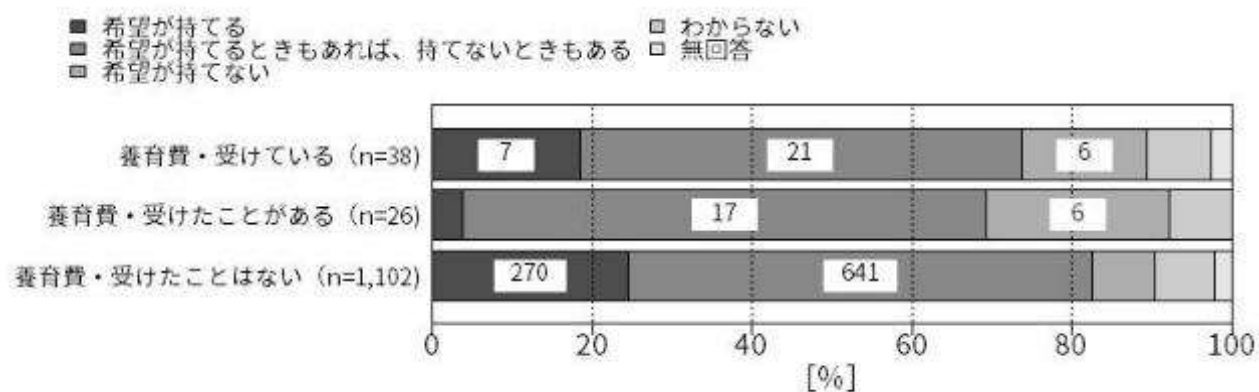
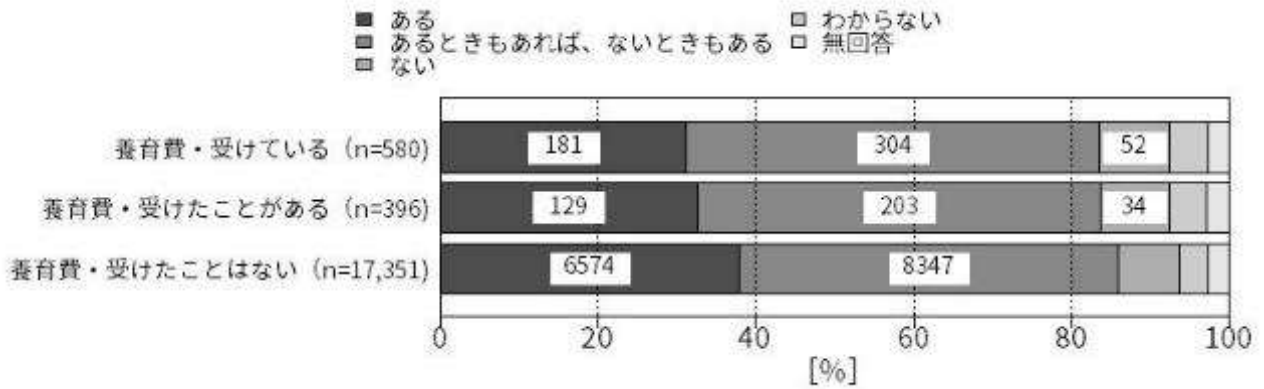


図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けている世帯では、「希望が持てない」が 15.8%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 23.1%、養育費を受けたことはない世帯では 7.7%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）  
 （保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(3)）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

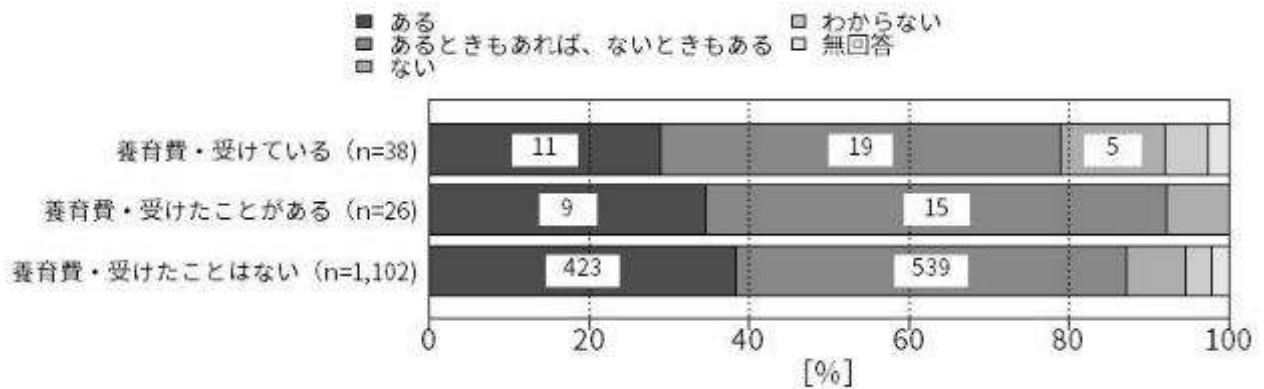
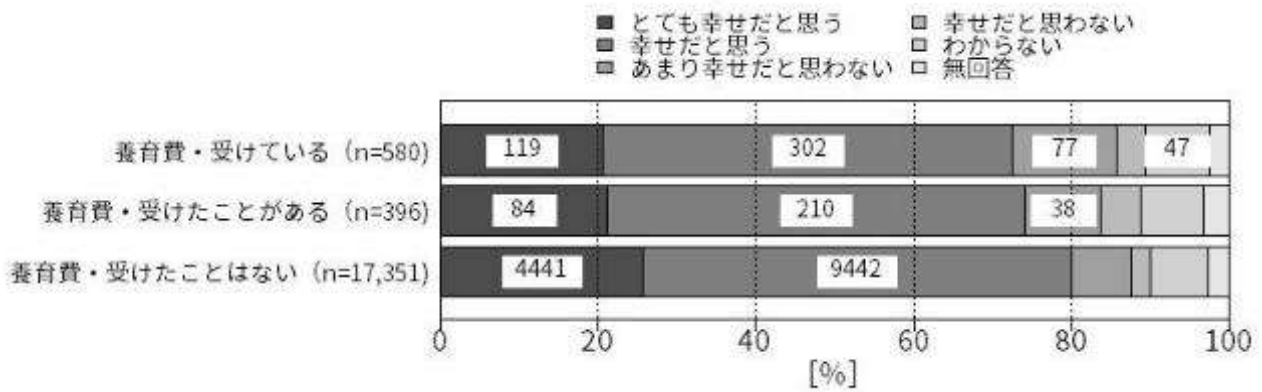


図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けている世帯では、「ない」が13.2%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では7.7%、養育費を受けない世帯では7.3%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）  
 （保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(4)）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

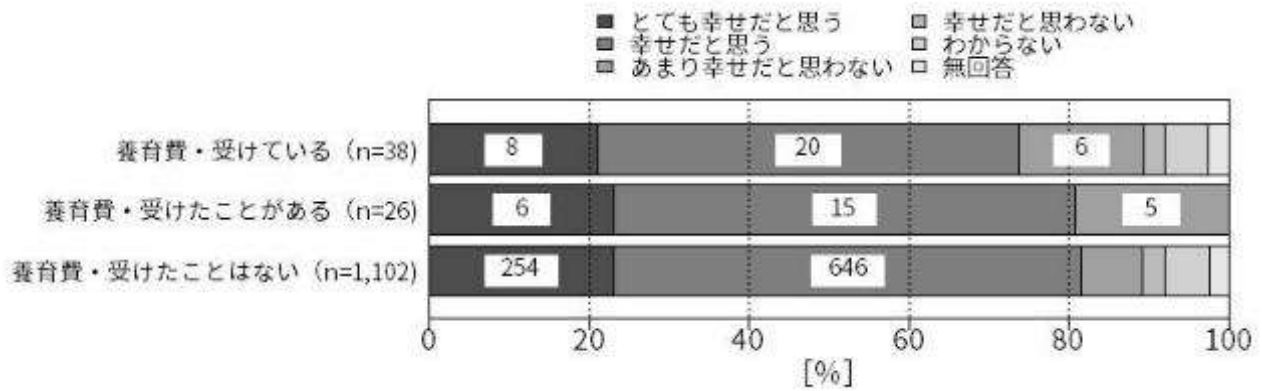


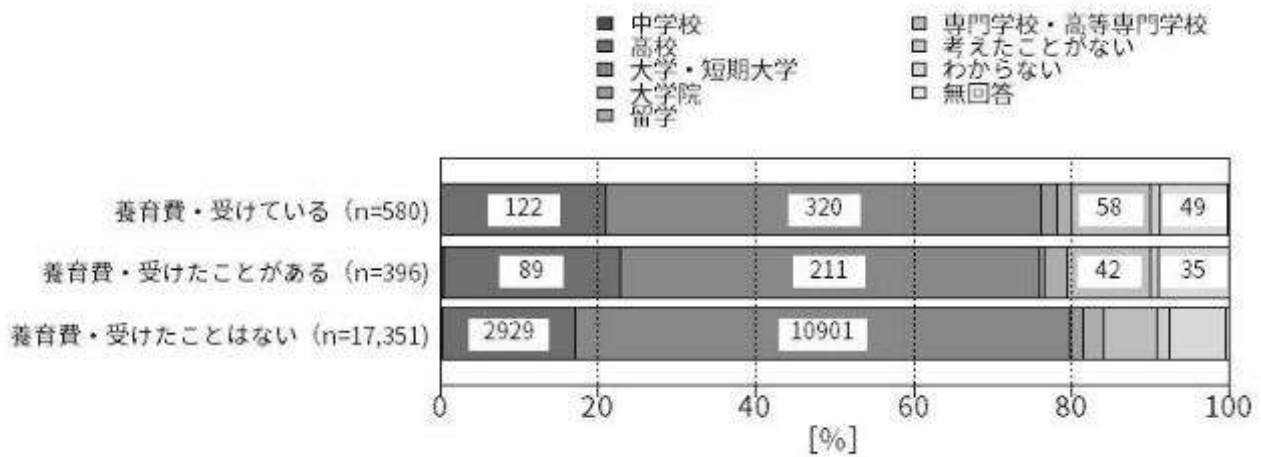
図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

養育費を受けている世帯では、「幸せだと思わない」が2.6であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では0%、養育費を受けたことはない世帯では2.8であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 15)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

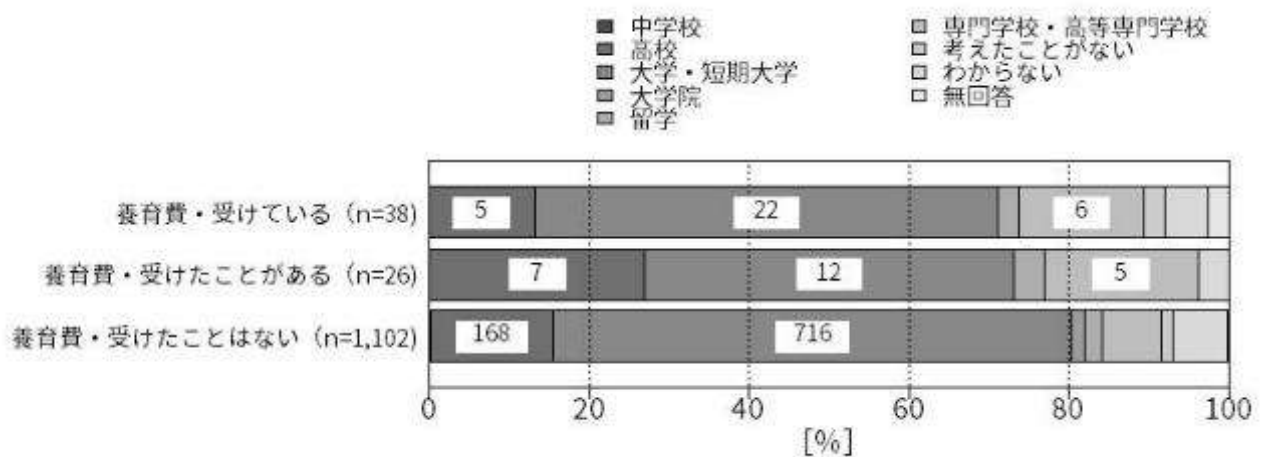
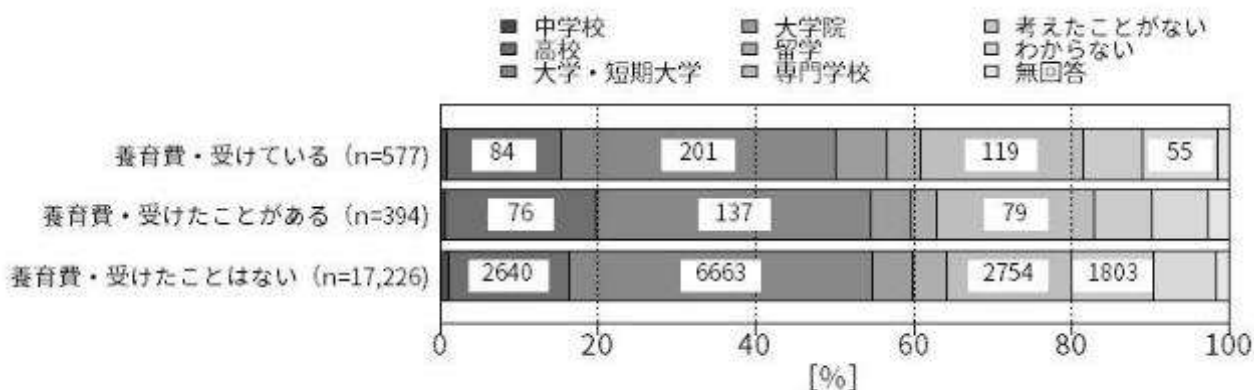


図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 57.9%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 46.2%、養育費を受けたことはない世帯では 65%であった。

養育費の受給別に見た、希望する進学先（保護者票 問 30(3)⑨ × 子ども票 問 27)

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

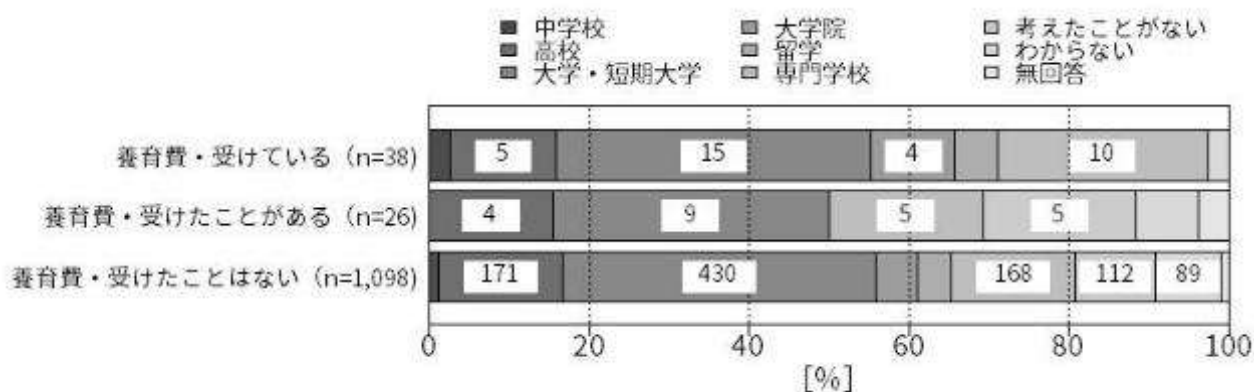
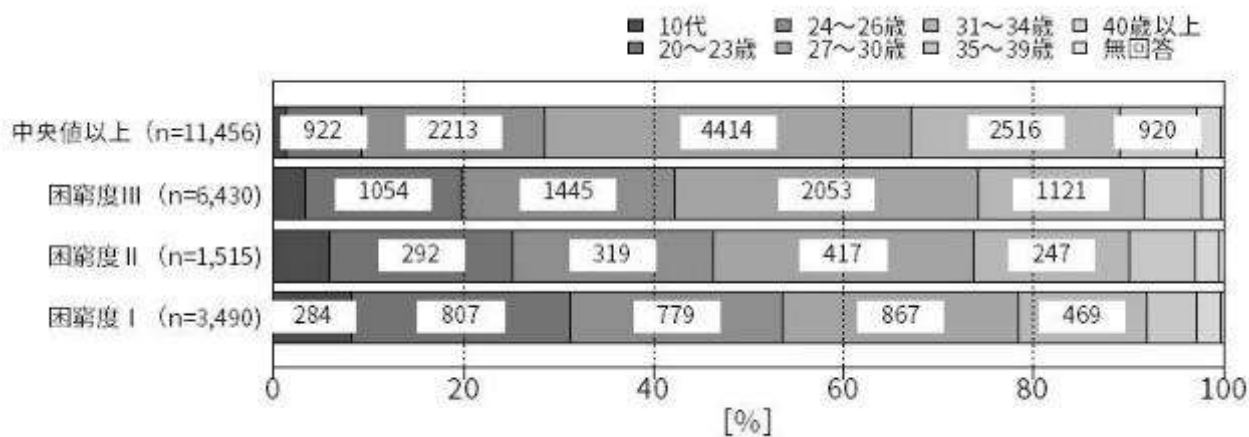


図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 39.5%であったのに対し、養育費を受けたことがある世帯では 34.6%、養育費を受けたことはない世帯では 39.2%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

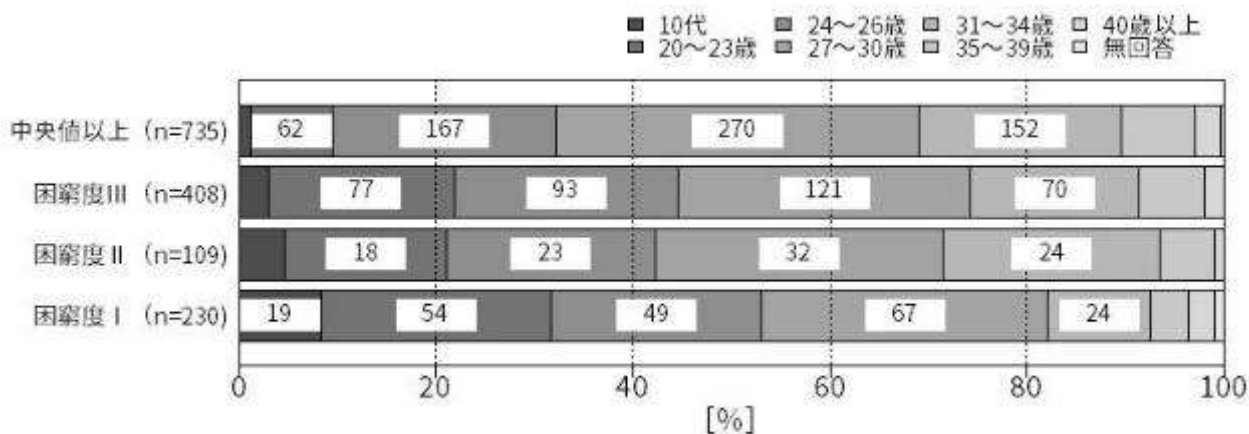


図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

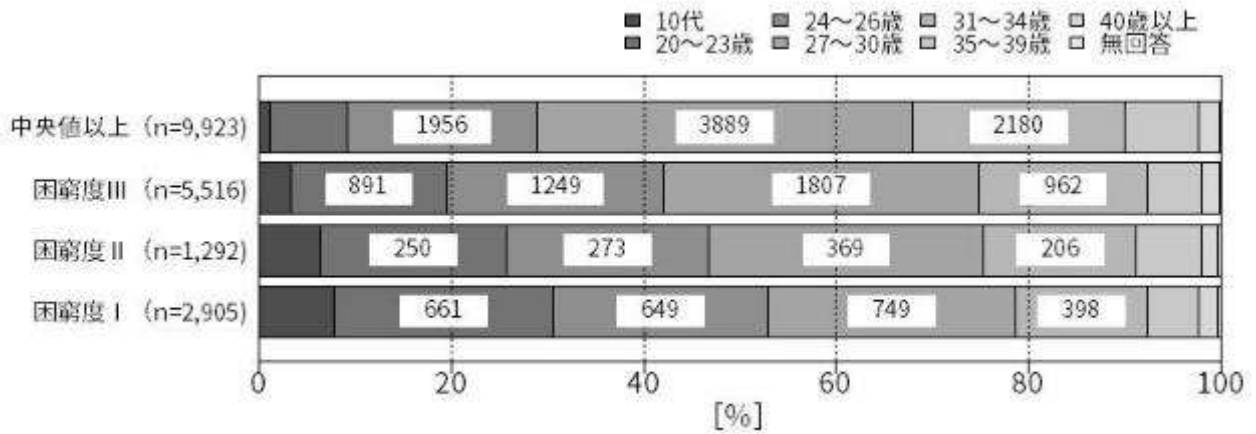
全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は8.3%であった。



困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票 問 22）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

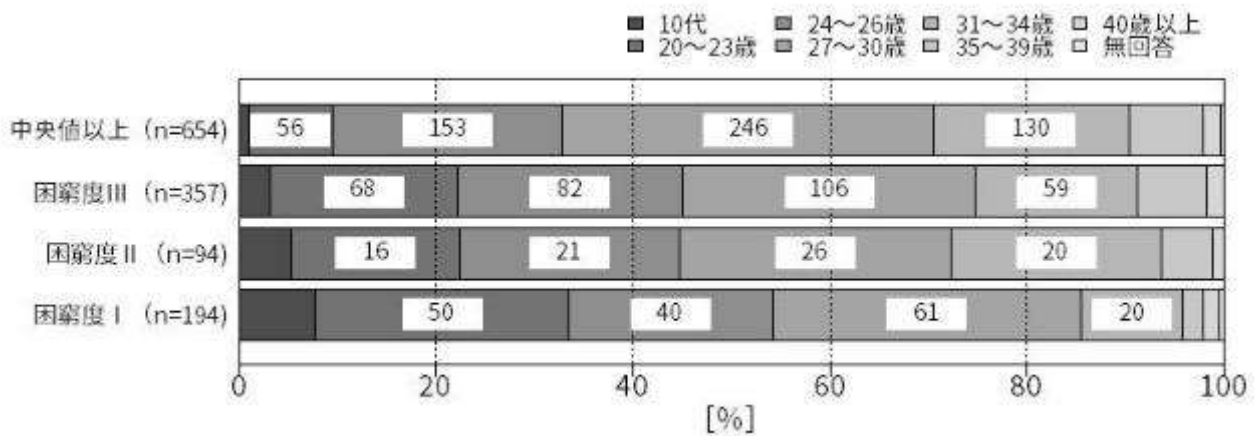


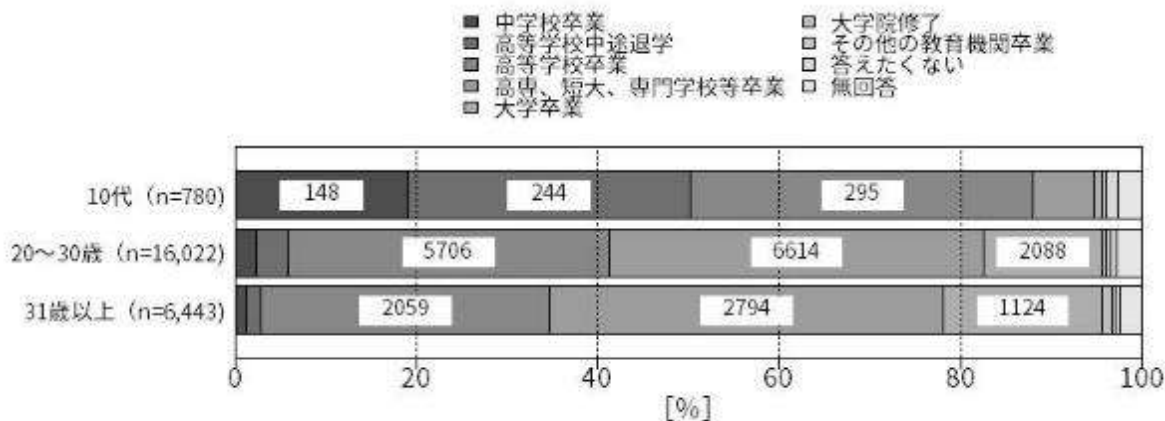
図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度Ⅰ群で10代で初めて親となったと答えた割合は7.7%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）  
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

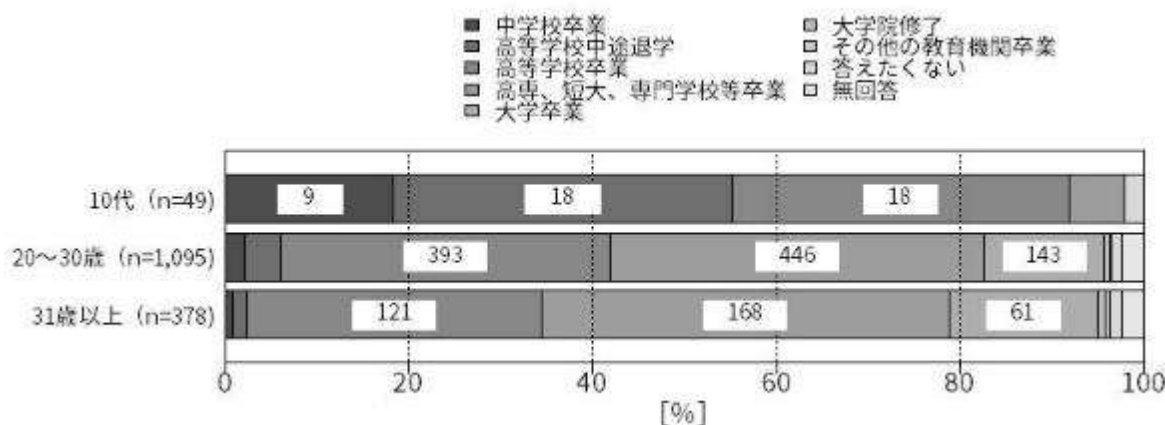


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴  
 ※母親が回答者の場合に限定

「初めて親となった年齢」を基準に、10代で初めて親となった10代群、平均出産年齢以下の年齢ではじめて親となった平均以下群（20～30歳）、平均出産年齢以上の年齢ではじめて親となった平均以上群（31歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は18.4%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は36.7%であった。

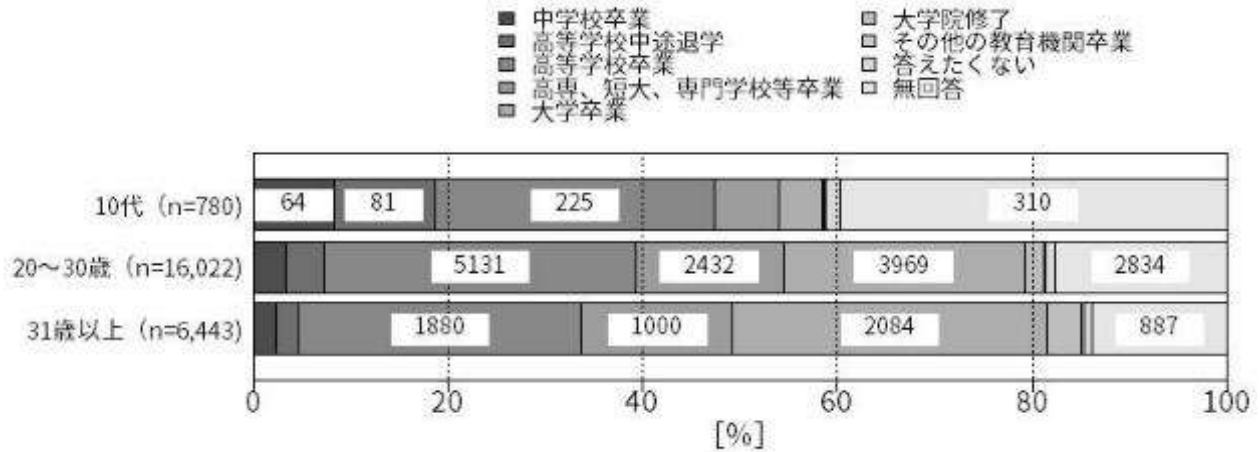
平均出産年齢：

[http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1\\_s1-1.html](http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1_s1-1.html)

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問 22 × 保護者票 問 8）

※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

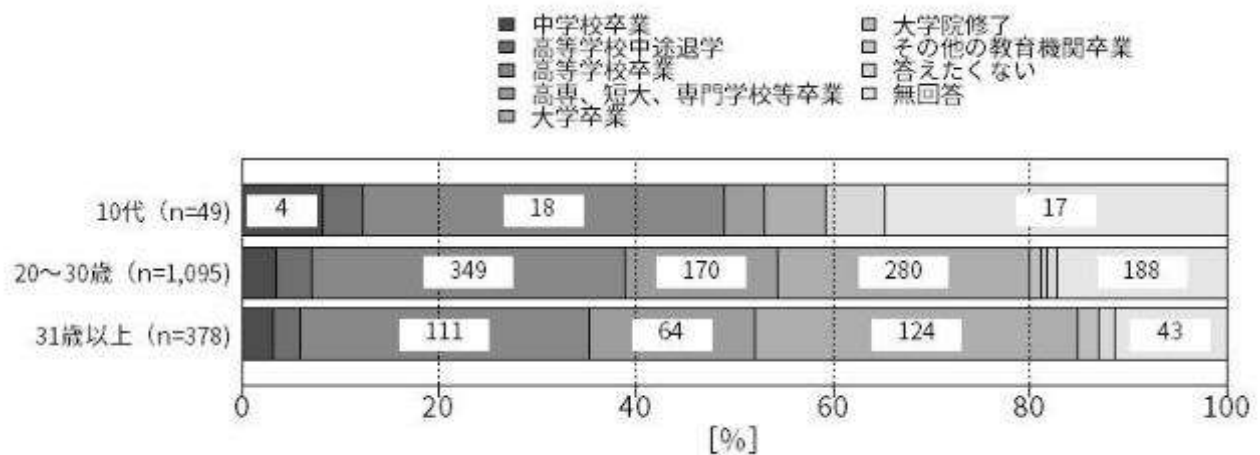


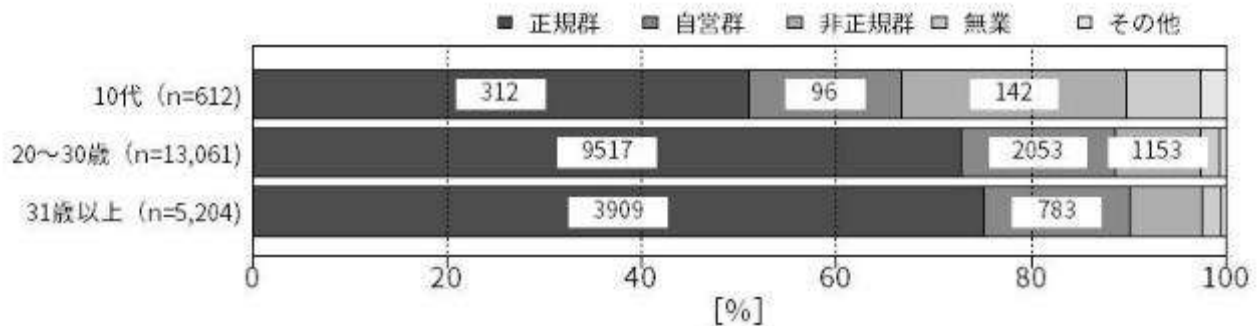
図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴

※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」と答えた割合は8.2%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は4.1%であった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票 問 22 × 保護者票 就労状況）  
 ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

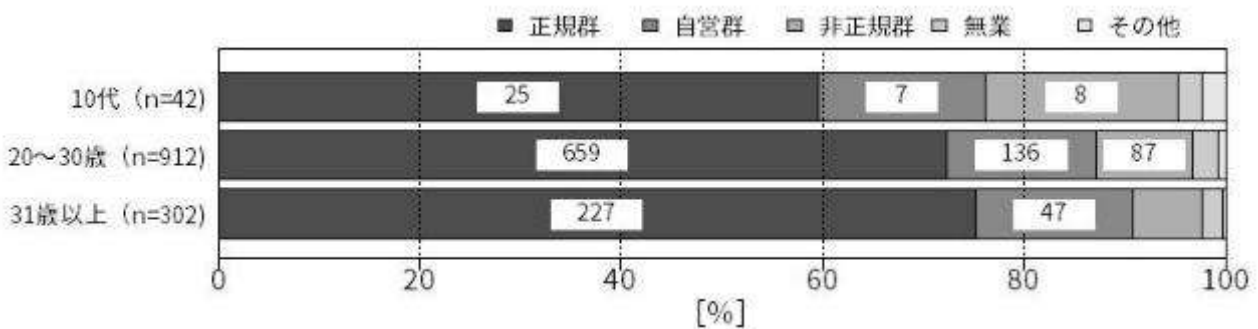
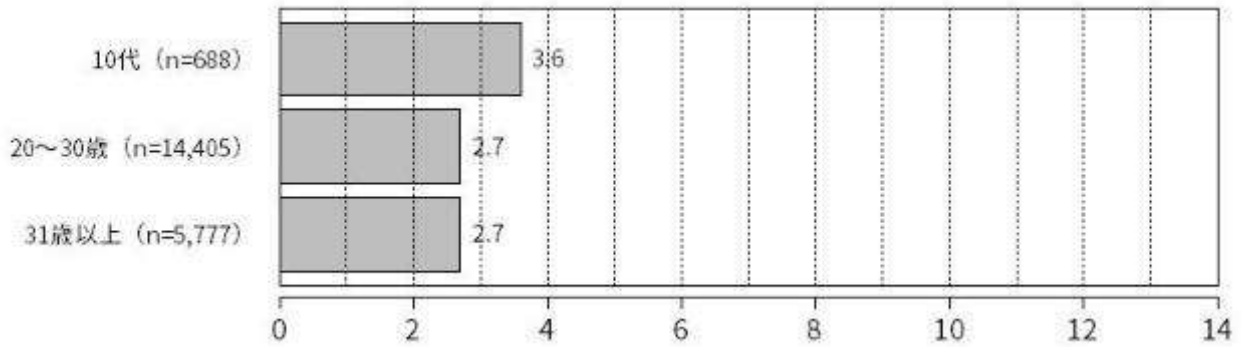


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況  
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10代群は「正規群」が 59.5%、「非正規群」の割合が 19.0%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
(保護者票 問 22 × 保護者票 問 26) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

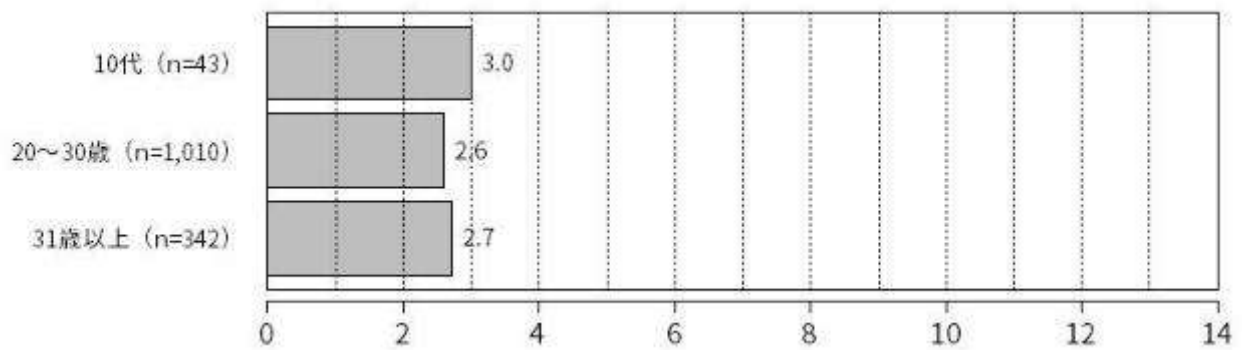
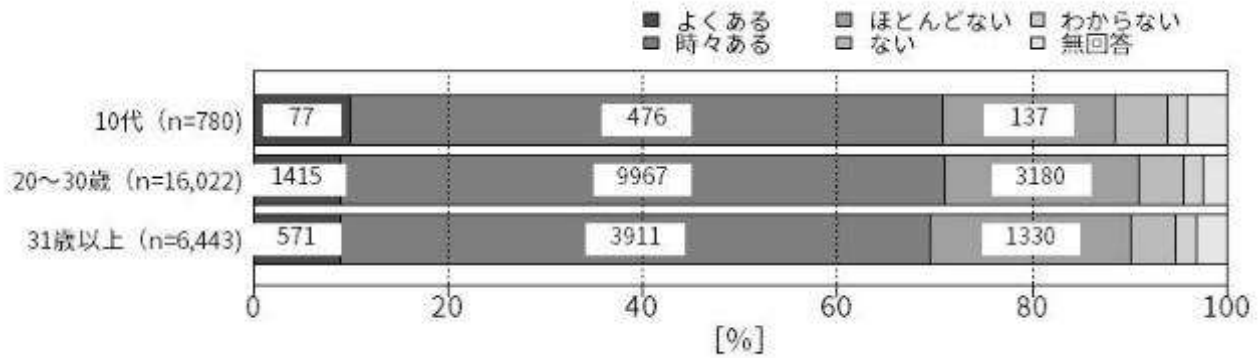


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群は3.0個であった。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと  
 (保護者票 問 22 × 保護者票 問 27) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

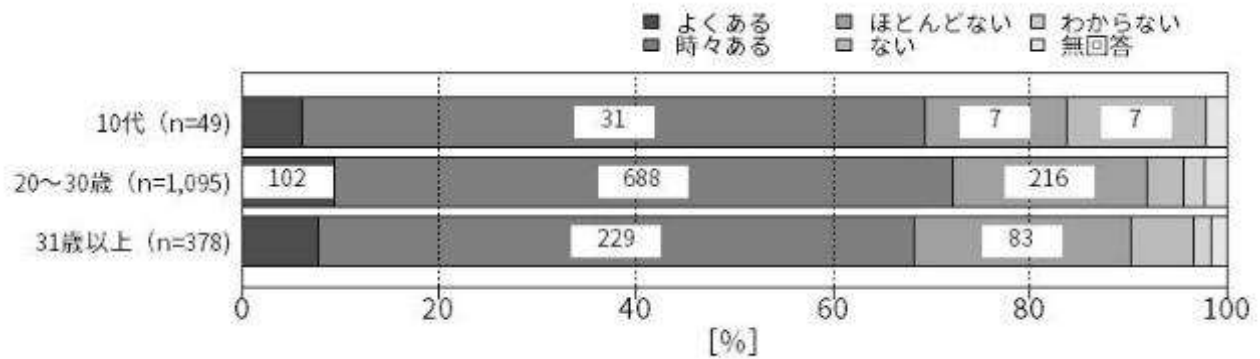
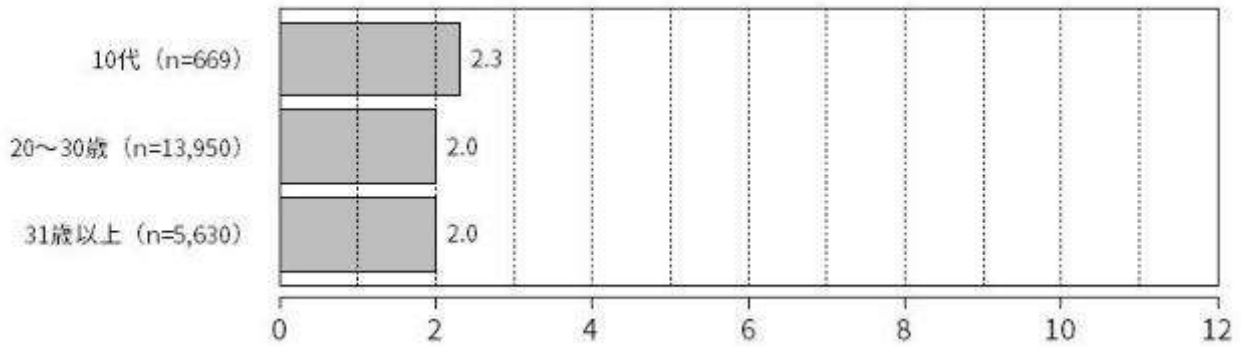


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと  
 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10代群は、「よくある」と回答した割合は6.1%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
(保護者票 問 22 × 子ども票 問 24) ※母親が回答者の場合に限定

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

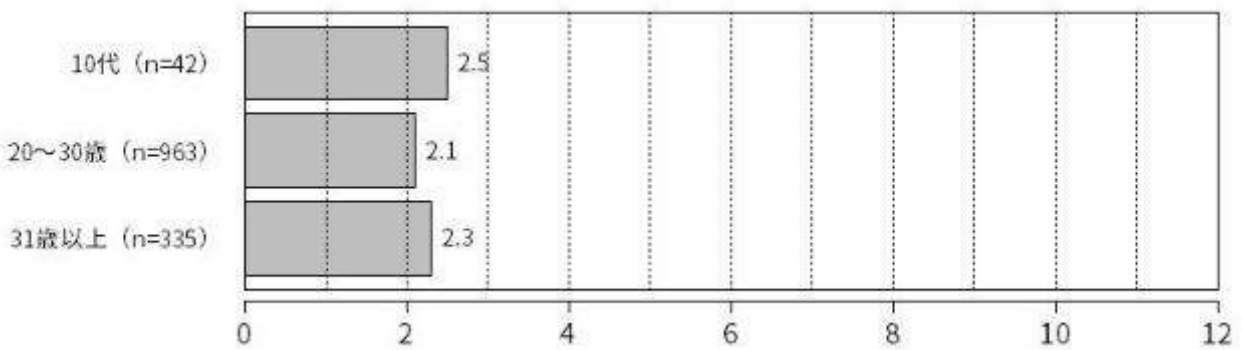
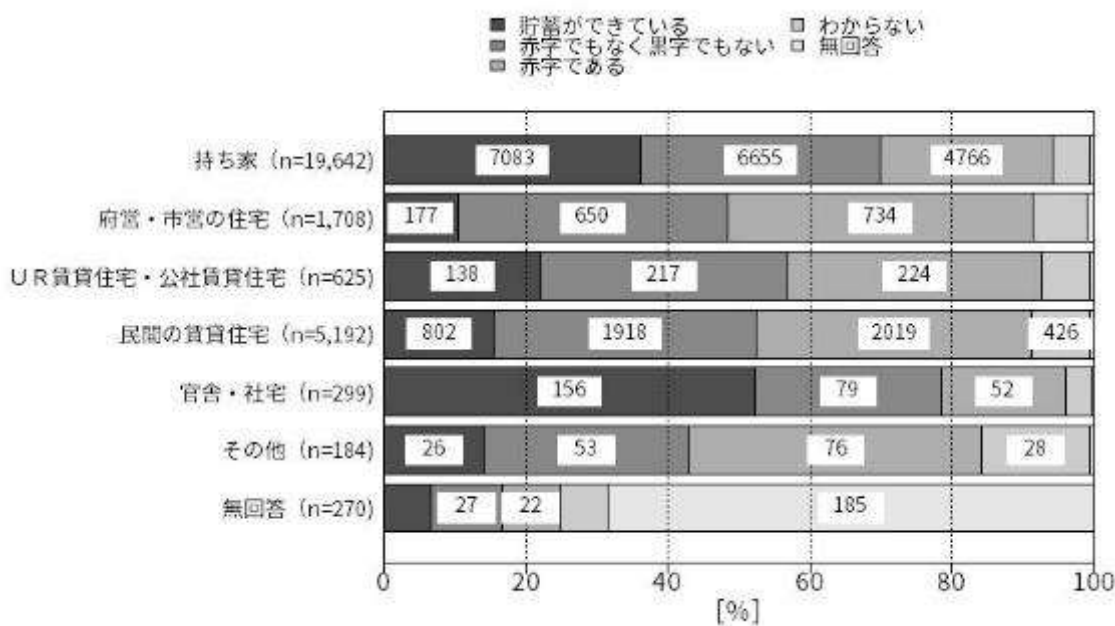


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること  
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10代群では2.5個であった。

住居別に見た、家計状況（保護者票 問4 × 保護者票 問6(1)）

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

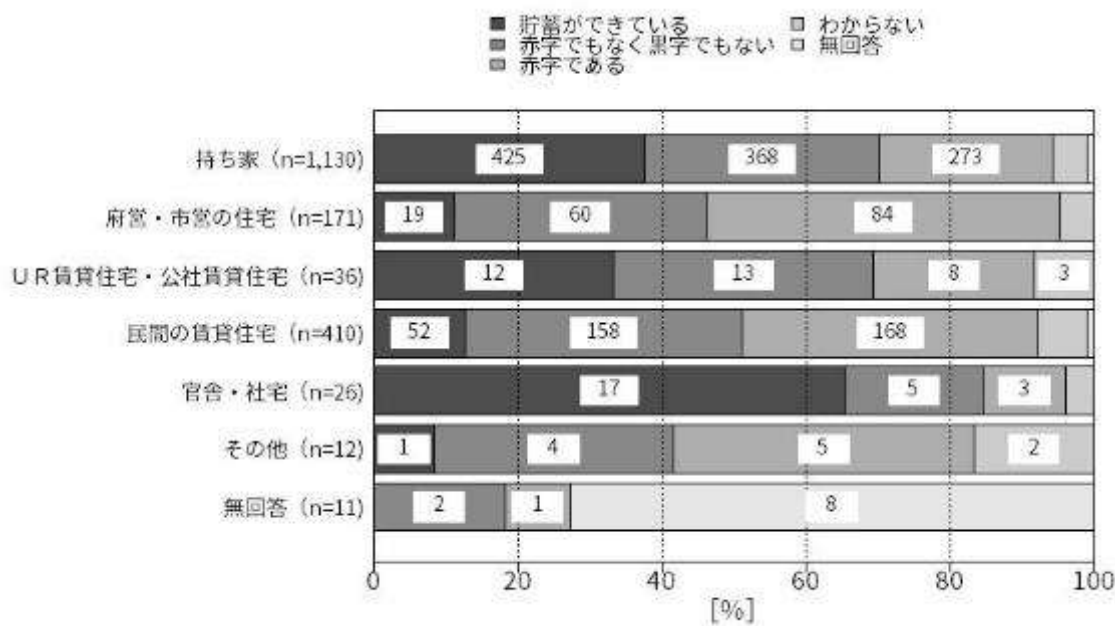


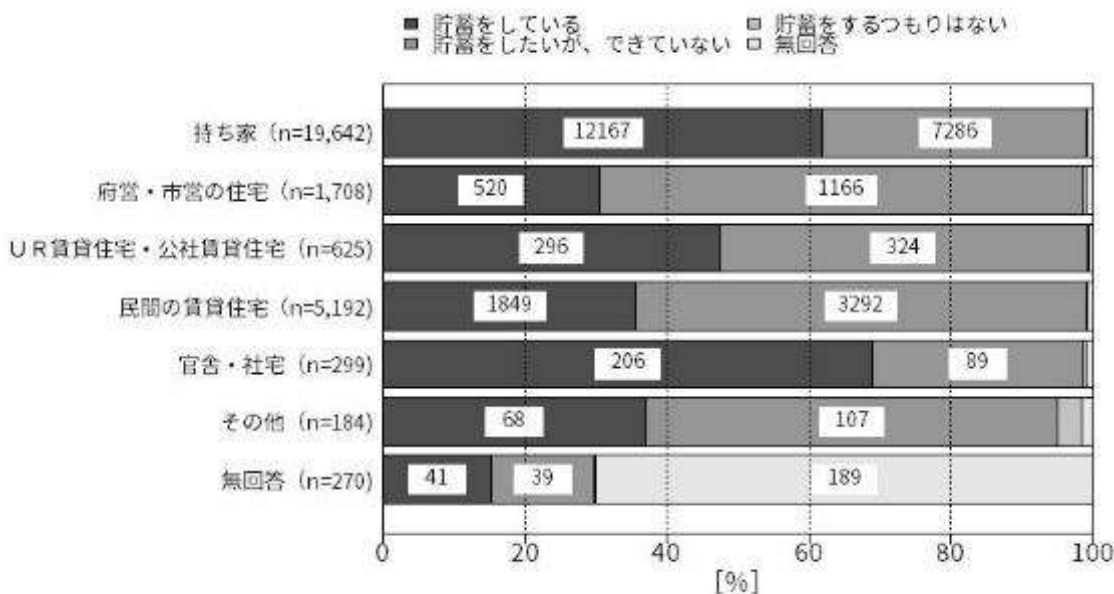
図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字であった」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 49.1%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 22.2%、民間の賃貸住宅に住む人では 41.0%であった。また、持ち家に住む人で「赤字であった」と回答した割合は 24.2%であった。



住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票 問4 × 保護者票 問6(3)）

<大阪市24区>



<大阪市住吉区>

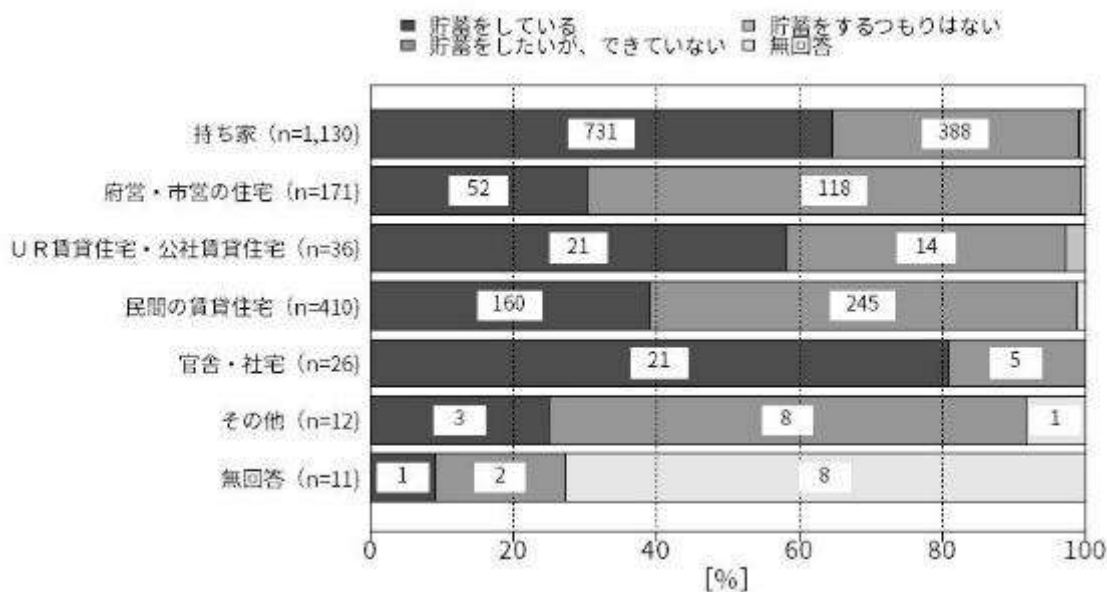


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 69.0%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 38.9%、民間の賃貸住宅に住む人では 59.8% であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 34.3% であった。

## <家庭状況に関する考察>

社会保障給付の利用状況について、困窮度Ⅰ群における各制度の利用率を挙げると、児童手当 93.5%（大阪市 93.2%）、就学援助費 70.0%（大阪市 64.4%）、児童扶養手当 75.7%（大阪市 76.2%）、生活保護制度 16.1%（大阪市 9.6%）である。

生活保護世帯について、受けていない世帯と比較すると次の違いが見られた。生活を「楽しんでいない」、ストレスを発散できるものが「ない」、「相談できる相手がいない」、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」、おうちの大人の人と文化活動をすることが「まったくない」、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」、授業時間以外に勉強を「まったくしない」、「学習塾等、習い事はしていない」、学校の勉強を「ほとんどわからない」などの回答が高い傾向が見られた。

子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点は生活保護世帯では 17.8 点（大阪市 17.7 点）、生活保護を受けたことがない世帯では 18.6 点（大阪市 18.5 点）であった。

生活保護世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが 26.3%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では 40.0%であった。

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。

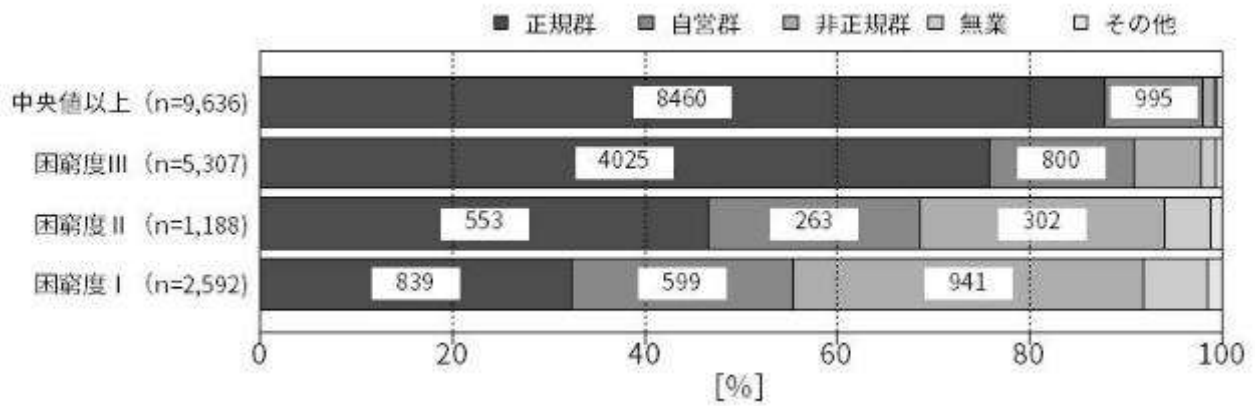
10代群において「中学校卒業」または「高等学校中途退学」と回答した割合が高くなっている。就労状況を見ると、10代群は他の群と比較して「非正規群」の割合が高くなっている。また、他の年齢層と比較して、自分の体や気持ちで気になると回答したことの数が多い。

家計について「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（49.1%）、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅（22.2%）、民間の賃貸住宅（41.0%）で高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は 24.2%であった。子どものために「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（69.0%）、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅（38.9%）、民間の賃貸住宅（59.8%）で高かった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 34.3%であった。

### 3-2. 雇用

#### 困窮度別に見た、就労状況（保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

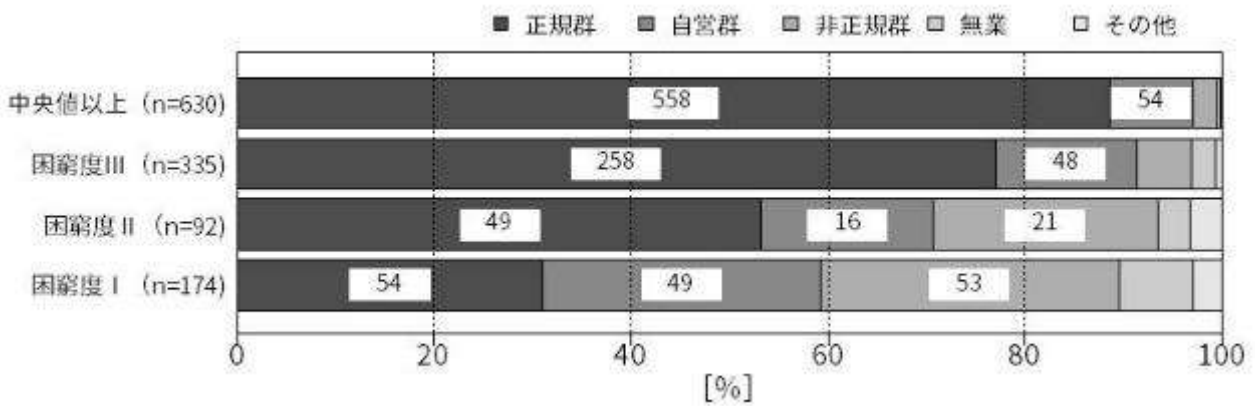


図 172. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では「正規群」の割合が31.0%、「非正規群」の割合が30.5%となっていた。

※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれば「正規群」（問9選択肢1）、

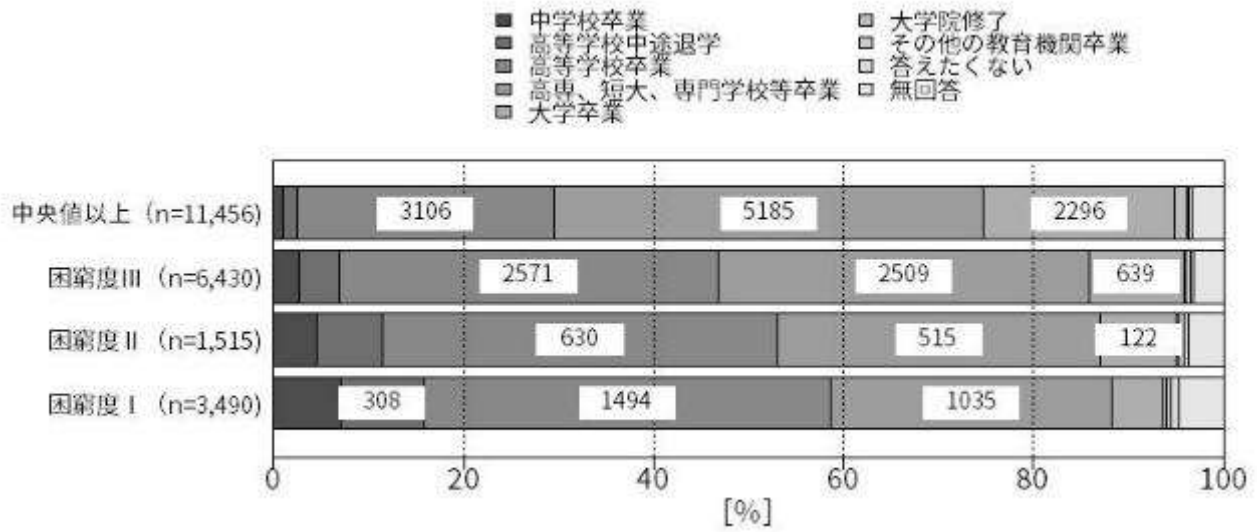
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれば「自営群」（問9選択肢4）、

上記以外で、誰も働いていなければ（問9選択肢6、7）無業。

上記以外がその他 となる。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

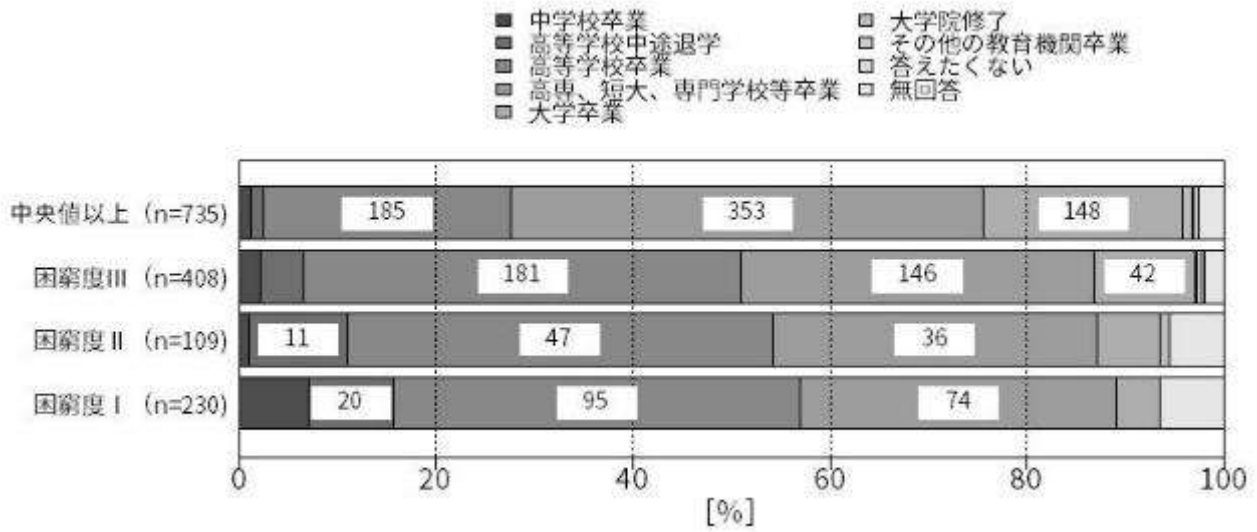
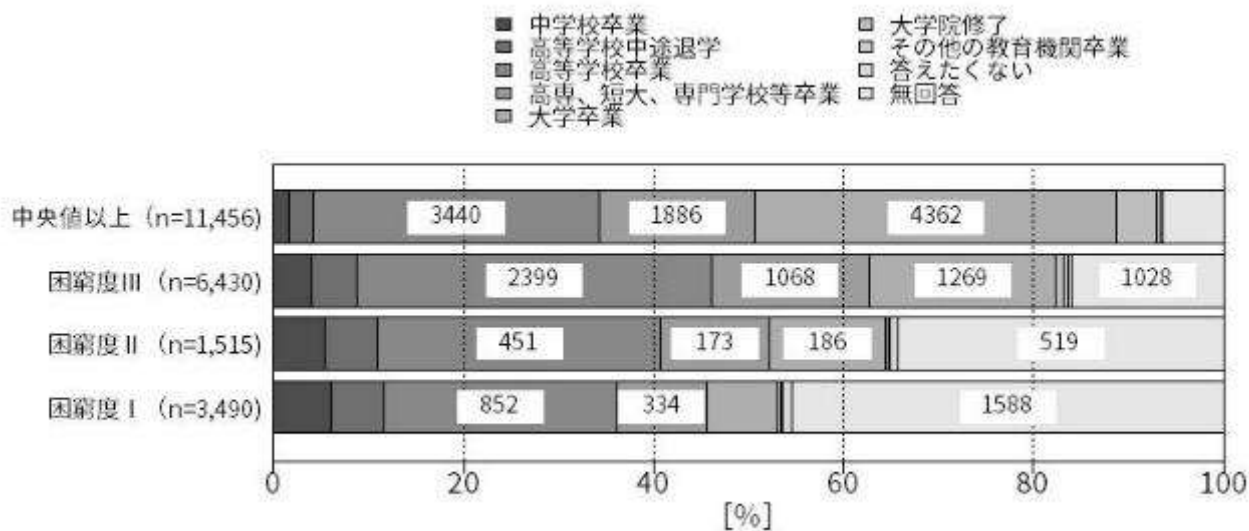


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群の「中学校卒業」は7.0%、「高等学校中途退学」は8.7%、「高等学校卒業」の割合が41.3%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票 問8）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

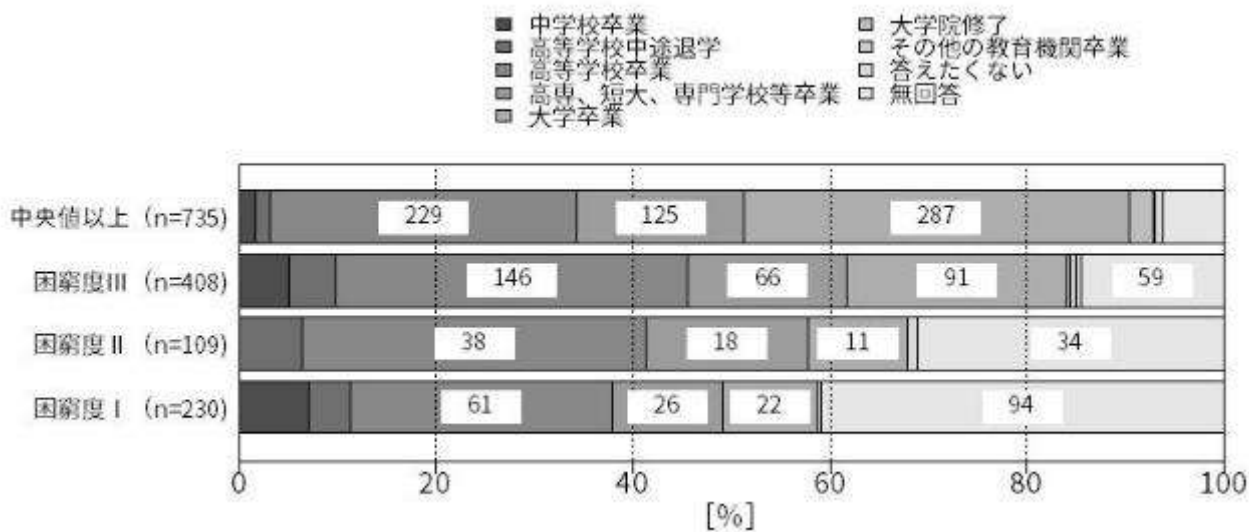
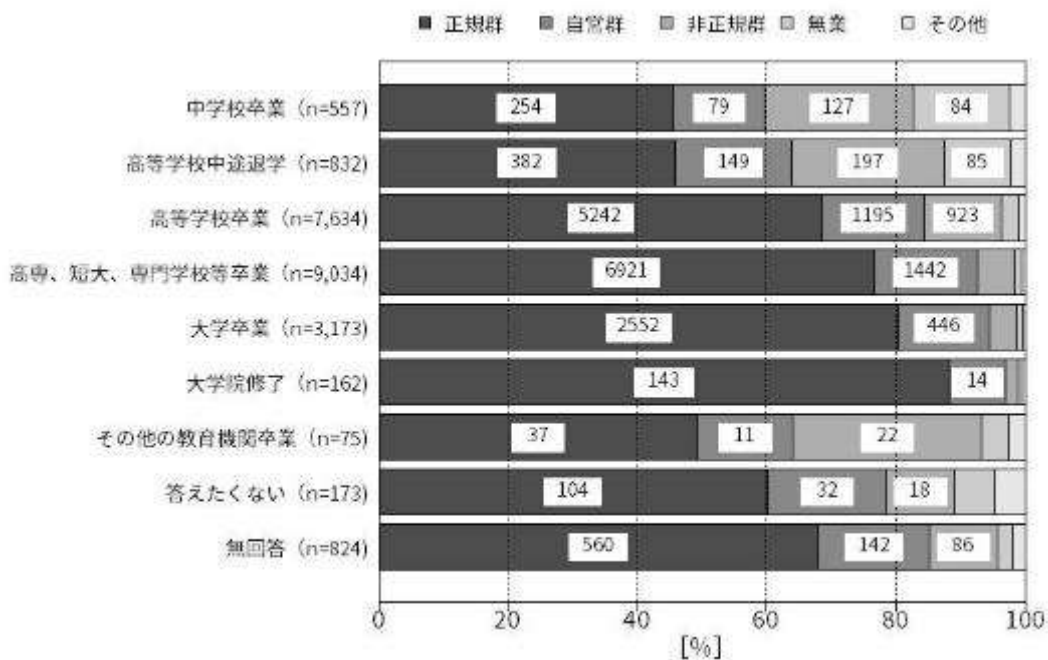


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ7%、4.3%であった。また、困窮度Ⅰ群では無回答の割合も高い(40.9%)。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票 問8 × 保護者票 就労状況）

<大阪市 24 区>



<大阪市住吉区>

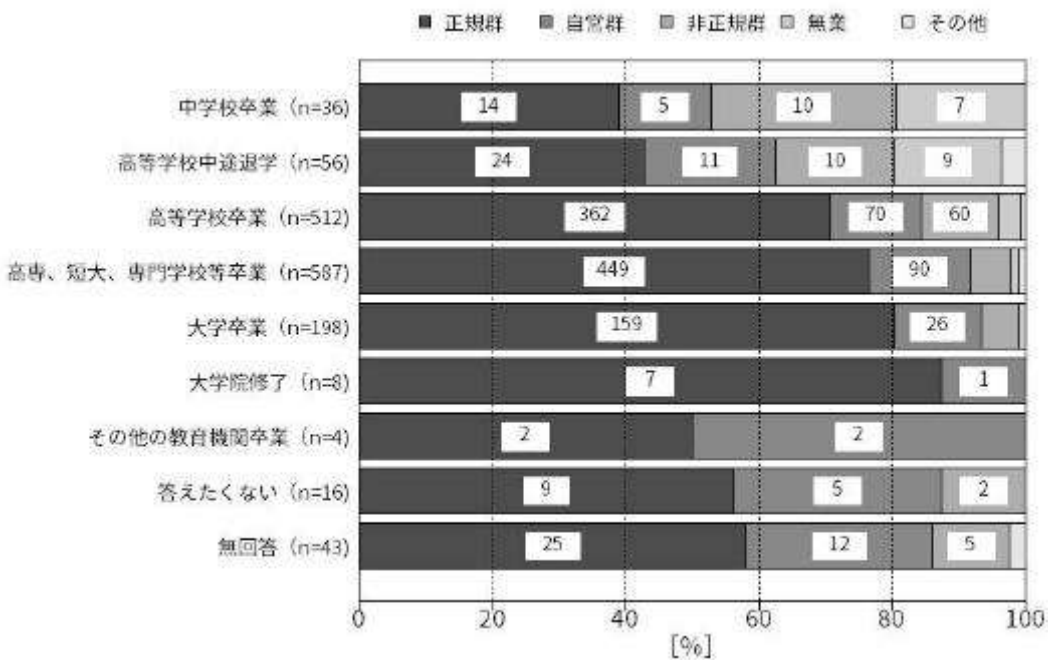


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。